

「西洋思想から東洋社会をみる」「東洋社会から西欧思想をみる」：私の座右の銘

川瀬 光義
(京都府立大学公共政策学部 教授)

「当時の日本というより、京都帝国大学経済学部に流行していた『王道楽土的支那観』や『大東亜共栄圏論』を批判する視角をもっていた」という『東洋社会と西欧思想』において故島恭彦先生は、「第一に西欧思想から東洋社会を考察する、第二に東洋社会から西欧思想を反省する」という方法を提起している。同書では東洋社会を科学的に分析するに際しての西欧思想の有効性は認めつつも、「西欧理論の図式を機械的、無意識的に適用すること」を厳に戒め、アジア社会を停滞的とみるウェーバーなどの西欧思想家の偏見を強く批判している。例えば、ウェーバーの東洋社会論を取り上げた最終章において「資本主義の世界史的性格(普遍性)と国民的性格(特殊性)」という課題を提起し、次のような批判で締めくくっている。

「東洋資本主義は、一般に、このような特殊な道をたどって発展したともみられ、それゆえに、まだ、西欧資本主義にみられぬ特殊な性格をもっているとも考えられよう。われわれは、ここに、資本主義の西欧型にたいして東洋型を、さらにまた、東洋型のなかでも、とくに日本型、中国型、インド型を問題にすることができる。一般に、東洋型の資本主義は、ウェーバーの言うような資本主義精神をとまわず、むしろ伝統的精神と種々なる形式で融和しつつ、かれのいわゆる Paria-kapitalismus(賤民資本主義)のかたちで発展する。それにもかかわらず、そこに、商品市場の発展、大工場制度およびこれにともなう賃金労働者の発生、近代型の大都市の成長等々の現象がみられるとすれば、東洋資本主義を資本主義と呼ばないということは、あまりにも西欧的な偏見である」と。

島先生が提起したこの視角は、自分たちが当然と思っている「図式を機械的、無意識的に適用」して、上から目線的に地域をみることを戒めている。台湾、韓国そして沖縄を主たる調査対象としてきた筆者は、この点を絶えず肝に銘じて研究をすすめてきた。

この視角の大切さを痛感したことは多々あるが、ここでは一例として韓国の伝賃(チョンセ)という賃貸住宅制度を例に挙げて述べることにしたい。伝賃というのは、伝賃金という保証金を家主に預けて住宅を占有できる権利を意味する。これは、次のような特徴を有している。第1に、伝賃金の絶対額の大きさである。日本の敷金や礼金は、地域によって異なるが、家賃の数ヶ月分、多くても1年分くらいであるが、韓国の伝賃金は分譲価格の一定割合で4～5割の水準の場合が多い。需給状況によっては8-9割となることもめずらしくない。第2に、借家人は家賃支払いの必要がなく、預けた伝賃金は契約期間終了時に全額無利子で返還されることである。第3に、契約期間が短いことである。かつては1年であったが、1989年の住宅賃貸借保護法改正によっても2年に延長されたにすぎない。筆者が韓国の土地住宅事情の調査研究に着手し始めた1980年代の後半、韓国も日本と同じくバブル経済により不動産価格の上昇が著しかった。そのため、1年ないし2年という短期間の契約更新のたびに、伝賃金の上乗せを迫られた借家人たちの中には、高騰する伝賃金の支払いに窮して一家心中を余儀なくされる場合もあった。このことを耳にした当初は、問題はあっても借家人の居住権が一定保護されている日本と比べて、貸し主にあまりに有利な韓国のこの制度の不合理さが目についた。しかし不合理さを指摘するだけでは、この制度が韓国社会になぜ根付いているかが理解できないであろう。そして研究を進めていくうちに、1960年代の軍事政権下で始まった高度経済成長期にソウルなど大都市圏への人口集中と絶対的な住宅不足を背景に、人々が住宅を分かち合うシステムとして伝賃が根付いているという側面を見落としていることに気がついた。それは、つまりこういうことである。

韓国では、民間はもとより公的部門が供給する住宅も、ほとんどが分譲住宅であり、賃貸を目的とした住宅のストックが乏しかった。さらに、中間所得層向けの低利で償還期間の長い公的住宅金融が未発達なため、

住宅取得のための資金調達を融資に頼るとすると高利の私金融が主とならざるを得ない。ところがこの伝賃によって家主は無利子で資金調達し、わずかな自己資金で複数の住宅を所有できて、住宅価格上昇にともなう資本利得を享受できる。他方、毎月の家賃支払いなしに一定期間住宅を占有できる点から、借家人も伝賃を選好してきたのである。

「西洋思想から東洋社会をみる」という視角からみると不合理で‘遅れ’が目立つように見える制度・慣習であっても、それが根付いている地域固有の事情を丁寧に把握しなければ評価を誤ることになりかねない。アジア研究の先駆者である島先生が提起したこの視角は、私にとって最も大切な座右の銘である。